

A photograph showing a vertical wooden post in the center, which appears to be part of a traditional Japanese building. The post has a large, irregular hole or gap in its upper section. A metal bracket is attached to the lower part of the post with bolts. The post is surrounded by various wooden beams and planks, some of which are being used to support or repair the structure. To the right, there are bamboo poles. The background shows more wooden framing and some dry grass or straw.

桜川市真壁町上谷貝

鹿島神社本殿

1月20日 木部の修理が
終わりました

【第4回】 今回の修理で確認された墨書

修理は調査の機会でもあります。特に建物には普段は隠れて見えない場所が数多くありますので、修理を行うと、これまで知られていなかった新たな発見があります。

今回は茅を全て下ろしたので、内部がよく見えるようになりました。棟木の中央に享保8年(1723)4月の墨書がありました。同年11月の棟札が残っていますので、4月に棟上げをして、11月に完成ということでしょうか。

二重虹梁の内側には、大工や木挽の名前がありました。棟札と同じで、大工は棟梁が下館の島村（養蚕小学校の南）の杉山八右衛門、仕手（棟梁の下で働く大工）が上谷貝の藤田半助、惣右衛門、多兵衛、木挽が原方の藤田甚五左衛門です。



（棟木中央南面）

享保八年

癸卯ノ歳

四月吉日



（東面内側 二重虹梁）

原谷貝村藤田

木挽 甚五左衛門

下館 嶋村

大工 八右衛門

仕手 藤田半助

同 惣右衛門

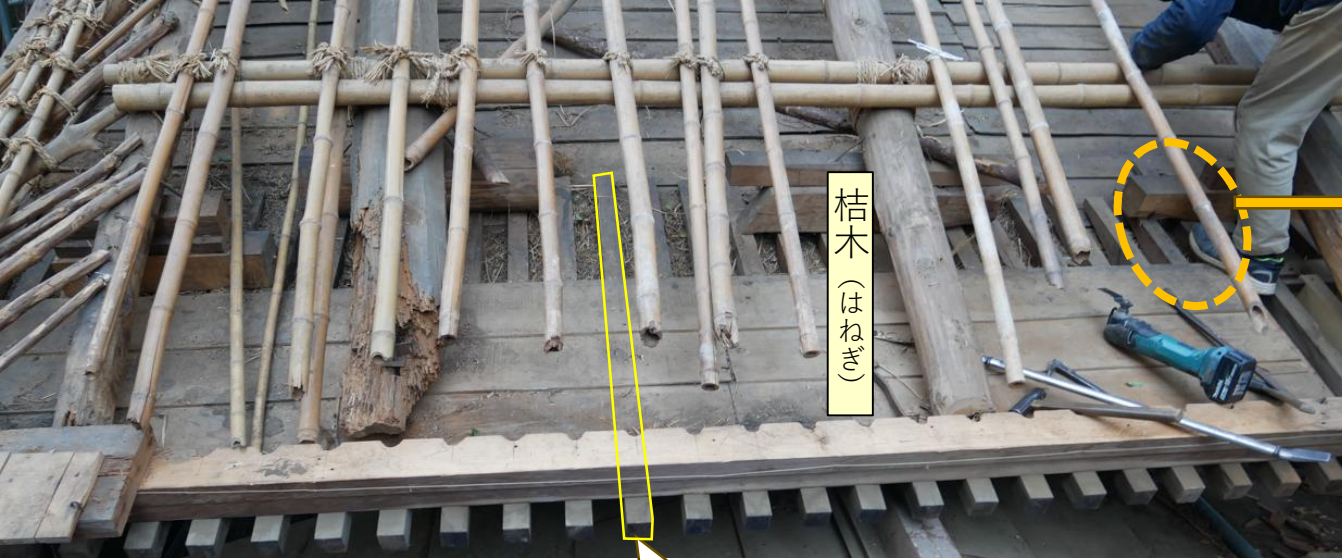
同 多兵衛

今回は茅葺きの葺き替え時期が近付いていて準備を始めていたのですが、令和6年3月末の暴風で、鹿島神社の本殿に境内の木が倒れて屋根を傷め、枝は屋根を突き破ってしまいました。

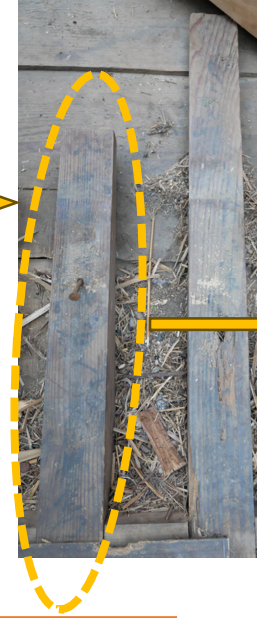
木を撤去したところ、傾いていた神社の建物はまっすぐに戻ったのですが、屋根の穴はもちろん直りません。茅を下ろすと、桔木（はねぎ）が横にずれ、野地板に穴が開き、飛檐垂木（ひえんだるき）が2本折れていました。今回、これも修理しました。

折れた部分のすぐ脇の垂木2本を見ると、墨書がありました。1本は殆ど読み取れないのですが、もう1本には修理の費用や人数、名前などが書いてありました。

柱や貫、垂木などの部材に位置を示す「いろは」や数字、記号が書かれる場合はあるのですが、普段は絶対に見えない垂木の隠れている部分にこういう内容が書いてあることは珍しいです。



桔木 (はねぎ)



飛檐垂木

地垂木



倒木の枝が屋根を貫通し垂木も破損

地垂木（じだるき）の上に飛檐垂木（ひえんだるき）を乗せて屋根を反らしながら伸ばしている。その飛檐垂木に墨書が発見された。屋根修理に要した費用と延べ人数を記している。

「一」 金子□両三分百貳拾四人 中谷田坪
「一」 扶持方共二 藤田岡右衛門

